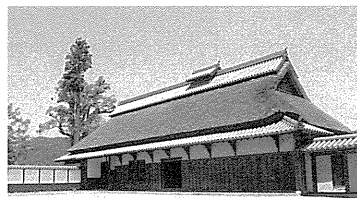




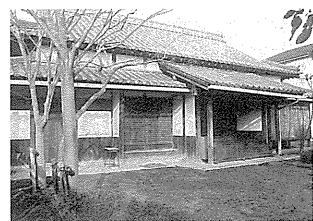
『林田校区』をたずねて

林田大庄屋旧三木家住宅 三木家の祖は英賀城主三木氏と伝わる。英賀落城の
のち林田に住する。元和3年(1617)林田藩の陣屋を聖岡に築くため、
山上にあった三木家の屋敷は山下に移りやがて現在地に移った。大庄
屋を勤めた。その主屋や長屋門は延享3年(1746)以前の建物で、こ
とに主屋は様式上17世紀後半の建物とみられる。「三木家住宅」6棟、
附古絵図6枚が平成2年、県指定文化財。

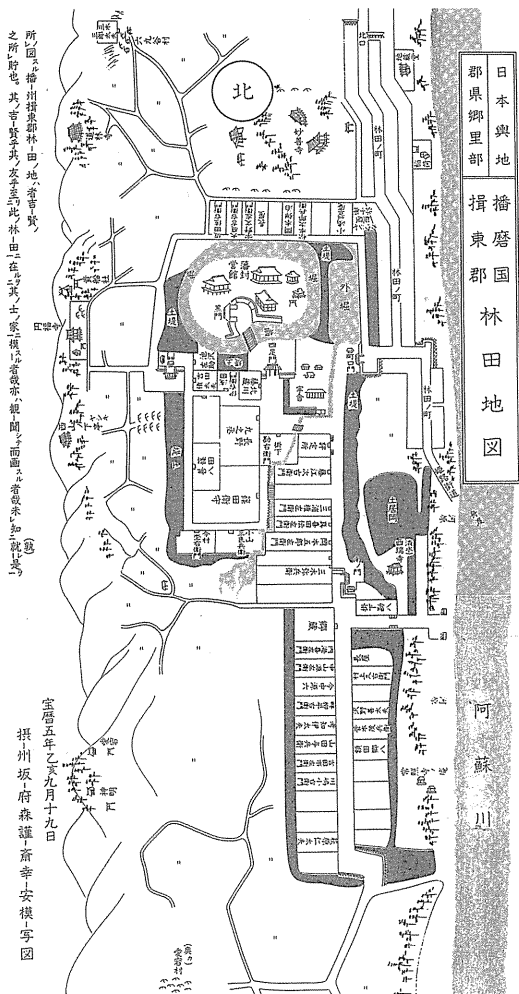


林田大庄屋旧三木家住宅(県指定文化財)

敬業館 寛政6年(1794)7代藩主建部政賢が建てた林田藩校。文久3年
(1863)火災にあったが、すぐ再建。聖廟・練武場・文庫などもあったが、
講堂だけ残った。講堂は明治になって敬業小学校や村役場となり、戦後は
公民館にも使用された。昭和54~55年に復元工事が行われ、今は県下に残
る藩校の建物として例が少なく市文化財に指定されている。敬業というの
は『礼記』から採り、「敬業館」の額の字は松平定信のもの。教授に石野
黄裳や河野鉄兜がしられる。



敬業館講堂(市指定文化財)



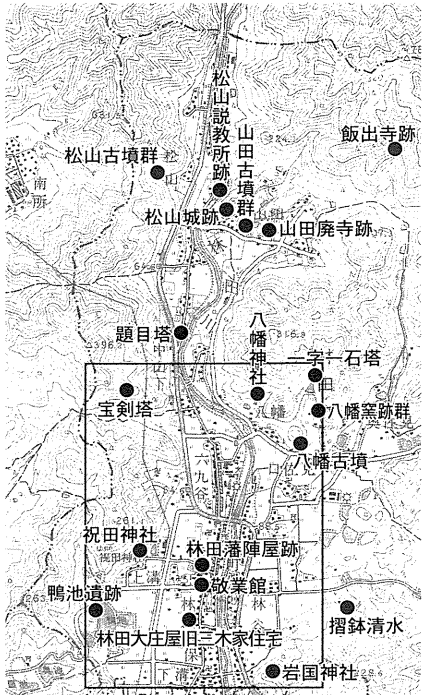
城下町林田

林田の名は、『播磨国風土記』
にみえるのが初見である。はじめ「談奈志」といい、
のち林田里になったが、林田の名の由来は明確でない。
中世は賀茂別雷神社領林田荘となり、その範囲は現在の
林田町大堤・山田・松山・奥佐見・口佐見・八幡・
中山下・六九谷・林谷・上構・中構・下構であった。

慶長5年(1600)池田輝政が播磨一国を支配したのち、
当地には建部政長が元和3年(1617)に入封して林田藩
1万石が成立。政長以後、転封もなく10代つづいて明
治を迎えた。その間、口佐見・林谷両村は龍野藩領・
幕府領を繰り返し、山田村は鵜(のち新宮)藩・幕府領
となり、この3村は寛文12年(1772)から龍野藩領(脇
坂氏)となった。明治4年の廃藩置県により林田県と
龍野県に属した。明治22年揖東郡林田村となり、昭和
30年東部の伊勢村と合併して揖保郡林田町となり、昭
和42年姫路市に編入した。今も林田藩陣屋跡・林田藩
大庄屋三木家(県指定文化財)・藩校の敬業館(市指定
文化財)や町屋など城下町の風情を各所に残している。
現在の国道29号線は昭和40年ころに完成し、鳥取と結
ぶ交通の要路となっている。

◀宝暦5年(1755)林田地図(解説図/姫路市史より)

陣屋のある小丘の周りは堀をめぐるせ、東は二重堀
であった。武家地は土堤に囲まれており、敬業館の
あたりは牢舎であった。地図の中央やや下に大庄屋
三木弥兵衛宅があり、その南に郷蔵があった。陣屋
東の因幡街道筋には町が発達している。北西には六
九谷組大庄屋三木三郎太夫宅もみえる。



飯出寺跡 「はんしゅつじ」とか「バサでら」という。『峰相記微記』に行基の弟子澄光上人の建立とあり、奥佐見の葛木山にあった。書写山円教寺に属していたが、羽柴秀吉に攻められて焼失したと伝えられる。

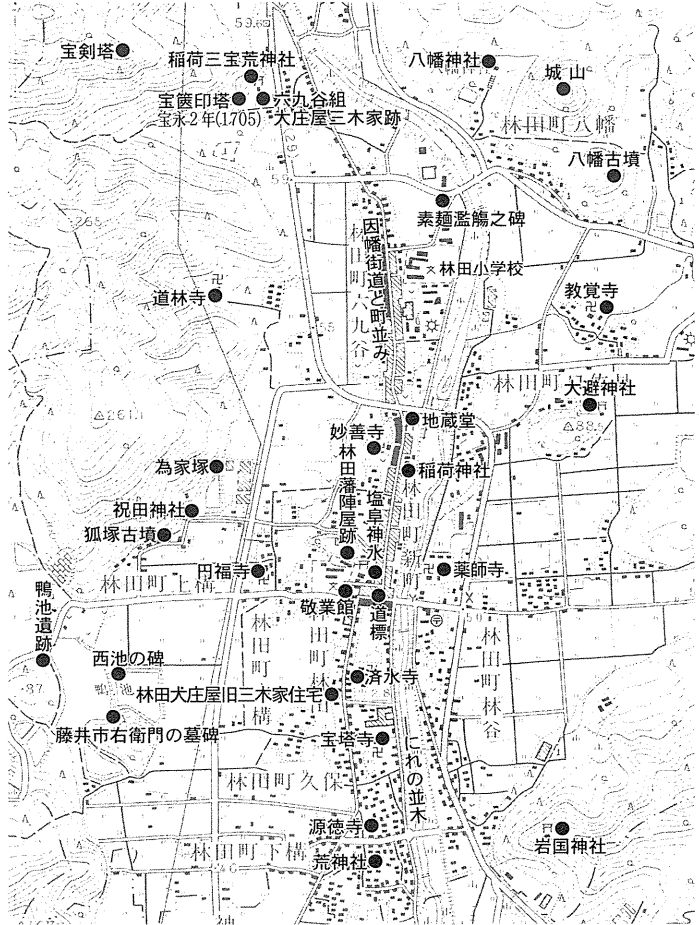
山田廃寺跡と山田古墳群 大正12～13年ころ、山田字堂山西の池の堤防を修理中塔心礎を発見。近くの田から多数の古瓦や直径1尺もある丸柱も出土した。またその近辺で3～4基の古墳を発掘し、人骨や須恵器が出土したが、開墾により消滅した。

松山城跡 永正15年(1518)ころ松山城主であった衣笠村氏は守護代浦上村宗方について主人の置塩城主赤松義村と戦った。天正の頃は長水城主宇野政頼の4男本郷宗祐が城主で、羽柴秀吉軍に攻められた。この城山はかます山とよばれ、今その北部に北辰妙見社を祀る。

松山説教所跡 明治19年に藤井伝十郎が創設した7間×6間の道場のことで昭和23年に浄福寺と改称したが、同50年に解体された。本尊は飯出寺ゆかりの阿弥陀如来と伝わり、今もこの地に安置されている。

宝剣塔 六九谷の西、安永峠の北峰中腹にある。九輪部分が破損しているが、元の高さは180cm前後。宝篋印塔というより宝塔の形式に近い。元文5年(1740)の造立。正面に「随求塔」と刻まれている。随求とは随求陀羅尼のことで、一切の罪障を消滅し、求むるところに随って即時に福德を得るということである。形から連想したのか宝剣塔と呼ばれ、六九谷組大庄屋三木家の娘とさる大名の若殿の恋物語伝説に結びついている。安永峠昇り口にある旧大庄屋三木家の墓地に宝永2年(1705)の宝篋印塔がある。

題目塔 正面に「南無妙法蓮華経日蓮大菩薩」とあり、天保2年(1831)に林田講中が日蓮の五百五十年忌に建てた碑。(国道29号線工事で現在地に移す)



山田廃寺の塔心礎



松山城跡



宝剣塔(随求塔)

題目塔

教覚寺 口佐見にある浄土真宗本願寺派の寺。大永6年(1526)好了の開基。好了は不動山飯出寺の僧で教覚寺も山号を不動山とする。末寺帳によると寛文13年(1673)に木仏を下付されたとある。元禄2年(1689)に焼失し、同10年に再建された。昭和・平成に諸建物を改築。



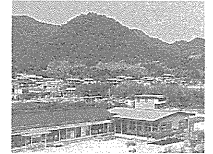
八幡神社

大避神社 口佐見の岡山にある。なまっつ御嶽社とよばれる。赤穂市坂越の大避神社から分霊したらしい。



絵馬「神祇」
(昭和54年修理)

八幡神社 寛平5年(893)林田8か村の有志36人が京都の石清水八幡宮から八幡の神を迎えて創建したと伝わる。境内には藩主政字・政賢・政醇が奉納した灯籠が3つ並んでいる。社殿内に天保10年(1839)奉納の林田八景や絵馬堂に新田義貞奉納と伝わる「神祇」をはじめ多くの絵馬がある。



八幡の城山

八幡の城山 八幡神社東の字城山は古城記に、中世の弥高山城があり、永正15年(1518)ころの城主は谷沢甲斐太郎国氏であるとする。『播磨鑑』には姫路市砥堀に同名の城と城主が記載され混同している。



八幡古墳

八幡古墳 昭和27年、佐見山の東斜面で、6～7世紀ころとおもわれる2つの横穴式古墳を発掘。人骨や土器・勾玉・剣が出土した。今は埋めもどして石標が建てられ、重内大明神を祀る。



一字一石塔

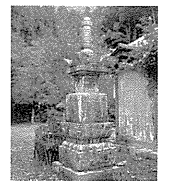


素麺濫觴之碑

一字一石塔 八幡の奥池北側にある。正面に「浄土三部妙典一石一字」とあり、寛延3年(1750)の建立。左右に一石五輪塔が7基並ぶ。池の東側には昭和14年の大干ばつを教訓にして増築した開拓記念碑がある。



鉄兜の墓碑



道林寺宝篋印塔

素麺濫觴之碑 江戸時代末期に揖保郡に製麺業が起り、林田にも製造者がいた。明治以後盛んになり、この碑は、明治20年に揖東・揖西両郡素麺製造組合をつくり良質の麺を製造して信用を得、販路を広げていった過程と、組合の頭取にもなり素麺業に功績のあった澤野利正を讃えたもの。

道林寺と河野鉄兜の墓碑 真言宗の寺で享保年間に順性の開基。15世の定海は吉野懐古の漢詩でしられる河野鉄兜との交わりが深かった。墓地にある鉄兜の墓碑には、正面に「文崇先生之墓」、側面に略歴が刻まれている。俳人松岡青羅に学んだ三木雨人の墓もある。境内には元禄7年(1694)の宝篋印塔をはじめ、江戸時代の宝篋印塔・石灯籠が多くみられる。

因幡街道と旧市場町の町並み 西国街道が姫路市下手野の所で分かれて飾西・追分・新宮を経、美作・因幡に通ずる道を美作街道とか因幡街道といった。追分から林田を通る道も因幡街道といった。六九谷の南部は江戸時代に市場町が栄え、今もわずかに当時の町屋(商家)の面影が残っている。



因幡街道と旧市場町

地藏堂 六九谷南部にある。寛保2年(1742)の林田庄八ヶ村絵図にみえる。地藏の台石には享保9年(1724)と刻まれている。

妙善寺 永正10年(1513)下野村(新宮町)に建立(了正の開基)された寺で西本願寺派に属していたが、林田藩主が、享保15年(1730)に今の地に移転し東本願寺派となる。藩主から拝領したと伝わる二幅の十王絵巻がある。林田藩校教授の石野黄裳や河野鉄兜と親交があった。

塩阜神水 『播磨国風土記』林田里の条に「塩阜」の話があり、三丈ばかりのわき水が海水と同じに満ち引きする話を伝える。祝田神社と八幡神社の秋祭りのはじまりはここで潮搔きの行事を行う。



塩阜神水



新町の道標と
道路元標

新町の道標 正面に「右 因州 すぐ金ぴら」、左側面に「すぐこうべ 左あんじ」などとあるが、今はひどく摩滅して判読しがたい。左横に大正時代に設置された林田村道路元標がある。

薬師寺と松尾芭蕉の句碑 林谷にある浄土宗の寺。寛文11年(1671)澄光の開基。元禄年中(1688~1704)徳法の中興。乳薬師の伝説がある。尊王派の浪士として池田屋騒動で倒れた大高又五郎をはじめ旧藩士の墓が多い。松尾芭蕉の句碑や梵字を刻んだめづらしい名号塔などもある。

「降すとも 竹うゆる日は 簀と笠 はせを(芭蕉)」

摺鉢清水 水不足に苦しむ村人のために旅僧が錫杖で岩を穿ち清水を涌出させた。穿った跡が摺鉢に似ていることからこの名がついた。のちにこの僧は空海であるとして近くに小堂を営み弘法大師像を安置している。

林田藩陣屋跡 聖岡、通称御殿山ごてんやまとよばれる小丘に建部氏の林田藩一万石陣屋があった。石垣や堀の一部が残る。この山は『播磨国風土記』の「塩阜」に比定されている。中世には谷沢国氏が守る窪山城があり、永正15年(1518)ころ赤松義村に攻められ落城した。今は梅林や桜が訪れる人を楽しませてくれ、林田初代藩主政長を祀る建部神社や忠魂碑もある。

清水寺と茶毘の塔 享保11年(1726)大庄屋の三木重郎右衛門が先祖の霊を祀るために田畑を寄付して建立した寺。はじめ自肯庵じこうあんと称し、宝暦年間に藩主の先祖も祀って清水寺と改称した。臨済宗妙心寺派。明和6年(1769)6代藩主建部長教が林田で死去したためこの地で火葬にした。境内には長教を祀る五輪塔がある。

宝塔寺 久保にある日蓮宗の寺。寛保元年(1741)日瑞の開基。藩主建部家の祈願所とされた。文久4年(1864)の題目塔などがある。

にれの並木 『播磨国風土記』に伊和大神がこの地を占拠したとき、にれの木が生えたという話がある。かつては林田川沿いにはにれの並木になっていたと伝えられるが、今は久保町あたりに数本しか残っていない。

円福寺 永和年間(1375~79)永良三郎(智山)が聖岡に開いたという真言宗雲禅寺があったが、大永元年(1521)智瑞のとき浄土真宗に改め、寺号も改めた。元和3年(1617)現在地に移転。寛永14年(1637)木仏・寺号を許された。鐘楼は享保年間の建立で烏長兵衛の作と伝えられる。

為家塚 祝田神社東のグラウンドの北に、歌人で有名な藤原為家の名を刻んだ石碑がある。おそらく山上の古墳と為家伝説が結びついたらしい。

祝田神社 927年完成の延喜式に「祝田神社」の名が見え、「式内社」とよばれて古い歴史をもつ神社である。境内に藩主まさよしの政字かた・政賢あつが奉納した3つの灯籠がある。社殿内に林田八景の奉納絵馬がある。

狐塚古墳 祝田神社西の山腹にある。2基の横穴式古墳が確認される。勾玉まがたま・管玉くだたまなどが出土した。

鴨池と二つの碑 初代林田藩主建部政長が水利に苦しむ領民を見て、高い位置にある田畑へ水を引くために水路と西池を築いた。西池は鴨池ともよばれる。3代目藩主政字は景色の美しいこの地に「発興亭はつこうてい」(西御殿)を建てた。池に浮かんだようにみえる琵琶山は林田八景の一つに選ばれている。藩校教授石野齋郷いしのさいこうの撰及び書で政長の功績を讃えた碑と寛政4年(1792)6月の大干ばつに藩命にそむいて林田の4か村に鴨池の水を取り入れ、その責任を負って死刑になった藤井市右衛門を弔う墓碑がある。

源徳寺 下構の浄土真宗本願寺派の寺。末寺帳に、正保4年(1647)浄恵の開祖(揖保郡誌には慶長元年(1596)恵了の開基)とある。宝暦12年(1762)木仏を下付され、天明4年(1784)に寺号を許されたとある。

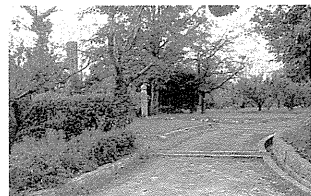
編集 出口隆一 (姫路市文化財嘱託調査員)



芭蕉の句碑(右)



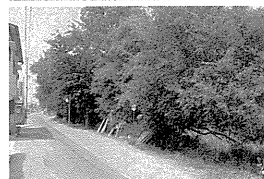
名号塔



林田藩陣屋跡



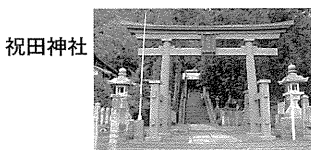
茶毘の塔



にれの並木



為家塚



祝田神社



藩主奉納の石灯籠



狐塚古墳



西池と琵琶山



石碑